



松本稔選手  
チームの大黒柱。要所を締め、勝利を呼び込んだサウスポー



富谷弘樹選手  
相手の球をはじくティールで、幾度もチームに流れを引き寄せた



徳田真行選手  
チームの先鋒を務め、絶妙のコントロールで目標球に球を寄せていく

地元の応援を背に、準々決勝、準決勝では大逆転勝利

# 松本 (清音三因)・富谷 (清音上中島)・徳田 (倉敷市) 組

# V 初優勝

## 日本ペタンク選手権大会



相手の作戦やコート  
の起伏、残りの球  
数などを考え、投げ  
る前には常に3人で  
話し合ってから投球  
へ。「ナイスボール」  
「ピアン」などと声を  
掛け合い、お互いに  
鼓舞していた



# 「トレビアン！」

新潟県A戦で、逆転勝利をほぼ確実にした一投にガッツポーズ

優勝カップを持ち「やったぞ！」と、満面の笑みの松本選手、富谷選手、徳田選手(左から)。3人が着ている虹のシャツは、優勝者のみに与えられる栄光の証



第24回日本ペタンク選手権大会が10月24日・25日の両日、清音ふるさとふれあい広場で開かれ、男子は地元総社の松本稔選手(清音三因)と富谷弘樹選手(清音上中島)、徳田真行選手(倉敷市)の岡山県Bが初優勝、女子も岡山県Aが4連覇を達成し、岡山県勢のアベック優勝となった。

大会には、30都道府県から予選を勝ち抜いた男女128チームが出場。男子の岡山県Bは、予選リーグを3戦全勝で突破。しかし、男女各32チームで争う決勝トーナメントでは苦しいゲームが続いた。特に、準々決勝の北海道B戦では3-11と大差でリードされ絶体絶命に。そこから驚異的な粘りで10点をもぎとり、大逆転でベスト4進出を決めた。続く準決勝の新潟県A戦も、終始押され気味の試合を終盤に一気にひっくり返した。

トワイライトゲームとなった決勝では千葉県Bに13-4と快勝し初優勝を決めた。

3人は「皆さんの応援が力になった」と第一声。そして、「チームワークの勝利」と勝因を話した。松本選手は「胃の痛くなるゲームばかりだったが、富谷くんと徳田くんから若いエネルギーをもらってがんばった」、富谷選手は「チームがピンチのとき、相手の球をはじく『ティール』が要所で決まった」、徳田選手は「悔いが残らないよう、攻めの試合をした」と大会を振り返った。

ペタンクは、ニュースポーツの一つで、ピュットと呼ばれる目標球に対し、相手チームの最も近い球より近い位置にある自チームの球の数が得点になる。

### 優勝までの軌跡

#### ■予選リーグ

1 試合目	奈良県 A	11 - 8
2 試合目	愛知県 B	11 - 9
3 試合目	宮城県	11 - 3

#### ■決勝トーナメント

1 回戦	岐阜県 B	13 - 9
2 回戦	兵庫県 A	13 - 6
準々決勝	北海道 B	13 - 12
準決勝	新潟県 A	13 - 11
決勝	千葉県 B	13 - 4

※予選リーグは11点、決勝トーナメントは13点の先取で行われた



大会には、30都道府県の代表男女128チームが出場(写真右)。花のボランティア清音コスモス会が丹精込めて育てたサルビアが会場を彩った(写真中央)。会場では総社市ペタンク協会の会員が豚汁を無料で振る舞ったり、会場設営に協力したりした(写真左)



富谷選手の球が止まった瞬間、初優勝が決まった。決勝は日没直前にスタート。トワイライトゲームを多くの人が見守った

